

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	11 月	22 日	記入者	安川暁美
調査者名	小倉	春日	仲谷	安川	

文化財名	神野寺境内の二次林				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1997年(平成9)3月21日				
所在地	山辺郡山添村伏拝(ふしおがみ)				
所有者 管理者	神野寺(こうのじ)				
員数					
時代区分					
樹木の場合	(樹木名) マテバシイやタブの群生林・雑木林			(樹齢)	
案内板の状況	山添村設置の説明板あり(1996年2月1日指定)。神野寺近くの道に神野山境界標あり				
公開	境内は見学自由				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input checked="" type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 境内主域は人工的に植えられた樹木が多く、良く手入れがされている。				
当面の課題	県指定の説明板は確認出来ず。 二次林となった経緯を知る説明文があればと思う。				
今後の課題	寺の東部、弁天池奥の二次林は倒木が多くみられる。地元の方によると20年ほど前の台風で 大きな被害を受け、その後の手入れも行き届かず荒廃が進んでいるのではとのことだった。指定翌年の奈良県の文化財にも大きな爪痕を残した1998年(平成10)の台風7号によると思われる。自然の力による樹木の成長、再生に期待したい。				
その他 (由緒など)	神野寺は聖武天皇の勅願により行基が創建したと伝えられ、代々の皇室祈願寺であった。皇室と関係のある寺院であり、何らかの人為的理由で伐採が行われ、その伐採木からの萌芽や土中の種子などから樹が芽生え、二次林を形成したのでは。				
コメント	タブノキは『日本書紀』に浮宝(うきたから=船)の材料として記され、『万葉集』には都万麻(ツママ)として読まれている。 タブノキから採れるタブ粉は線香の材料の1つ(粘結剤)として用いられる。マテバシイは日本固有の常緑広葉樹で薪や炭を作るのに利用され、どんぐりは食せる。 度重なる火災により往時の面影はないとされるが、山門、中門、本堂、鐘楼が周りの自然と調和し良いお寺である。現在住職は奈良市針町にある観音寺と兼務。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020 年	11 月	22 日	記入者	安川暁美
調査者名	小倉	春日	仲谷	安川	

文化財名	神野寺境内の二次林
------	-----------

神野寺の石標と山門	神野寺境内
-----------	-------



説明板(山添村設置)本堂前

案内板 神野寺から山頂へ戻る道



神野寺東部、弁天池奥の寺領地

県立月ヶ瀬神野山自然公園の標柱と神の山境界標

